

# 平成20年度 事務事業評価表

	コード	H20-B-02
事務事業名	町内循環バス運行業務委託料	自治防災振興課
		自治防災担当

## 1. 事務事業の概要

計画体系	(章)	5. 便利で魅力のあるまちづくり			(会計)	一般会計
	(節)	5-4 公共交通機関の機能強化			(款)	総務費
開始・終了年度	(開始)	平成12年度6月試行、平成14年度本運行			(項)	総務管理費
	(終了)	-			(目)	自治防災管理費
事業の種類別	自治事務(任意)	自治事務(義務)	法定受託事務			
根拠法令等						
統合の検討可能な 関連・類似事業						
内容と目的	自ら交通手段を持たない子供や高齢者の交通手段の確保と公共施設の利便性を図ることを目的とする。					
現状と結果	主に、高齢者の方々が余熱利用施設「湯かっこ」へ行く際に、また大沢小の円良田方面の子供達が下校の際に利用している。					
課題と改善	課題: 年々利用者が減ってきている。利用者が少ない割に費用が多くかかる。 改善点: 地元からの要望に応え、平成20年6月より甘粕・関地区において運行経路を一部変更する。					
住民意見	利用者が少ない					
対象数	利用数	平成17年度	平成18年度	平成19年度		
		6,728人	6,506人	5,836人		

## 2. 経費(決算額)

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	
事業費(千円)		8,370	7,760	7,980	
財源 内訳	受益者負担				
	国・県支出金				
	その他特定財源				
	一般財源	8,370	7,760	7,980	
備考	19年度 1日当たり平均利用者数 23人 年間運行日数 250日				

### 3. 1次評価

評価項目と評価の視点			評価・評価コメント					
妥当性	(1) 事業の必要度	社会環境や住民ニーズなどの変化により事業の必要性や役割は変わっていないか	変わっていない	一部変わった	変わった			
	(2) 対象設定の妥当度	事業実施の目的として対象者は妥当か特定の団体や個人に偏っていないか	妥当である	あまり妥当でない	妥当ではない			
	(3) 実施主体の代替度	事業を町以外(民間や国・県など)に任せることができるか	可能でない	一部可能である	可能である			
有効性	(1) 成果の達成度	事業の実施により初期の目的や目標をどの程度達成しているか	達成していない	一部達成している	達成している			
	(2) 事業の見直し度	成果の状況を踏まえ、事業内容を見直す余地はあるか	見直す余地はない	検討の余地がある	見直す余地がある			
効率性	(1) 行政コストの削減度	経費節減によりサービス水準を低下させずにコストを下げることができるか	できない	検討の余地がある	できる			
	(2) 効率性の向上度	事業の効率性を上げるため他の事業との統合や事務の省力化など見直しの余地があるか	見直す余地はない	検討の余地がある	見直す余地がある			
	(3) 受益と負担との相関度	行政サービスの内容と負担を比較して、受益者負担の適正化の余地があるか	適正化の余地はない	検討の余地がある	適正化の余地がある			
総合評価	1. 見直しの必要なし	見直しの必要あり	2. 改善	3. 充実	4. 縮小	5. 統合	6. 廃止	2
予算反映	1. 現状どおり	2. 増額	3. 減額	4. 廃止				1
評価理由	利用者は減っているが、目的である交通弱者の足としては利用されているので、今後はコストを抑えながらもより多くの方に利用してもらえよう改善していく必要がある。							

### 4. 行政評価検討プロジェクト意見聴取

1次評価に対する意見	利用の現状を見ながら費用対効果を考え、運行の是非を含め今後検討していく必要がある。
------------	---

### 5. 2次評価

総合評価	1. 見直しの必要なし	見直しの必要あり	2. 改善	3. 充実	4. 縮小	5. 統合	6. 廃止	2
予算反映	1. 現状どおり	2. 増額	3. 減額	4. 廃止				3
評価理由	総合的な判断の中で廃止も含めて検討を進める必要がある。検討に際しては、現在利用している者に対する配慮も慎重に検討する必要がある。							

### 6. 外部意見聴取

評価全体に対する意見	現行の町内循環バスについては廃止することを前提とし、バスを小さくする、タクシー券の助成をするなど、経費を削減した代替案を検討すべきである。
------------	---